

[第11回学術集会公開シンポジウム：家族看護研究のストラテジー]

家族エコロジカルモデルにもとづいた家族機能度の量的研究 —FFFS 日本語版 I による家族機能研究の現状と課題—

神戸大学医学部保健学科小児・家族看護学

法橋 尚宏

I. はじめに

「家族の健康」の保持・増進には、家族機能を維持・向上する家族看護実践が不可欠であり、家族看護学において機能不全家族が議論されている。ここでは、家族エコロジカルモデルにもとづいた家族機能研究をとりあげ、要となるいくつかの用語の定義を整理しながら、質問紙を用いた家族機能の定量法の現状と課題について、私見を含めて概説する。なお、これは小稿¹⁾の内容を補完するものである。

II. 家族看護学における量的研究

1. 「家族を看護学する」ことの検証

筆者は、家族看護学の定義とは、「家族という小集団に対して、家族の機能とセルフケア能力を高める援助を行う実学」であると解釈している。家族とは「帰属意識によって結ばれた個人の小集団」であり、クライアントとその家族を一単位として看護援助を実践することが基本である。

ここで特筆すべきは、家族看護学が「家族病理」として現れる現象そのものだけを扱うのであれば、はなはだ不十分であるということである。家族は取り囲まれる外部の人的・物的・社会環境と常に相互作用しており、その現象を生み出している環境に立ち入ることに家族看護学の奥義がある。すなわち、家族とエコロジーを一体化してホリスティックに家族を捉え、「社会病理」などにも学問的にアプローチしなければならない。したがって、家族看護学の対象は「クライアントとその家族、および家族と相互作用し

ている環境」であると筆者は考えている。

なお、「飼っている愛犬は家族なのか」といった類の質問をよく受けるが、以上の視角から、「愛犬は家族員ではないが、家族看護学の対象である」というのが私見である。

2. 家族機能の定義と家族機能研究

看護研究法は質的（帰納的）研究と量的（演繹的）研究に大別²⁾できるが、これは家族看護学研究においても同じである。家族看護学研究の柱のひとつとして家族機能研究があげられるが、筆者は、家族機能の量的研究と機能不全家族への家族看護介入をライフワークとして取り組んでいる。

さて、家族機能であるが、筆者は「家族員の役割行動の履行により生じ、家族が家族員および社会に対して果たしている働き」であると規定している。すなわち、家族は、家族員個人に対する対内的機能、社会に対する対外的機能を発揮することになる。

家族機能研究におけるの難題は、家族を測定単位とする研究は、個人を測定単位とする研究よりも複雑であることにある。これが、家族機能研究の進捗を遅らせる主因であろう。

3. 「妻たちの家族看護学」問題

家族看護学では家族を対象としているにもかかわらず、質問紙の回答者は家族員個人が単位となる。回答者は妻（母親）であることが多く、筆者はこれを「妻たちの家族看護学」問題として提起したい。なお、このように、理論の水準（家族）と方法の水準（家族員個人）との間で単位が異なることは、早くから家族社会学においても問題となっていた³⁾。

この「妻たちの家族看護学」問題の解決方法のひとつとして、共分散構造分析（確認的因子分析）の手法

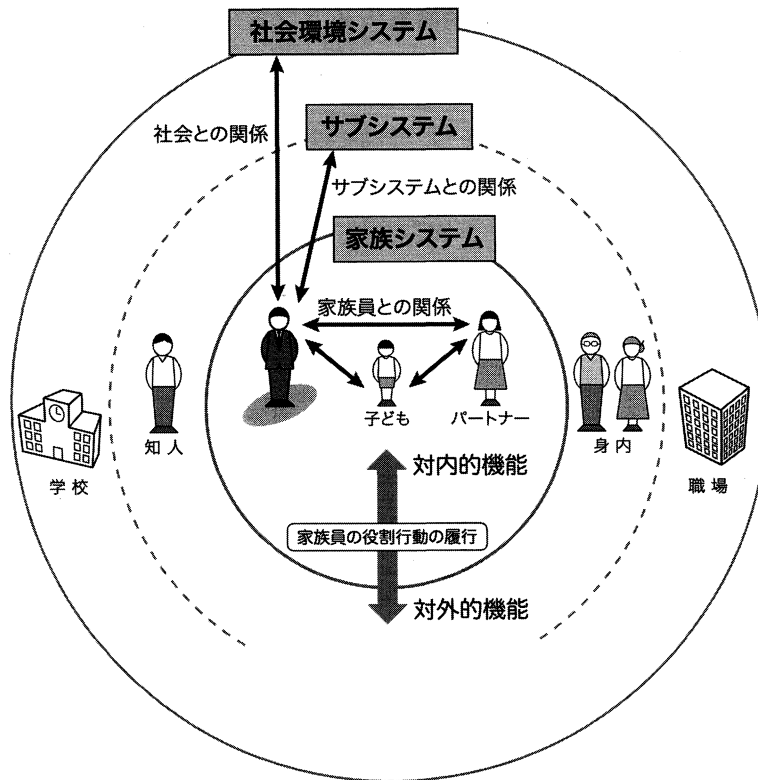


図1. 家族エコロジカルモデルに準拠したFFFS日本語版Iの構成概念

があり、夫と妻という個人レベルからみた家族機能度から、統計的にその上位に家族システム全体の家族機能度を想定できるようになる。今後、家族看護学における家族機能研究でも大いに議論が必要であろう。

III. FFFS を用いた家族機能の定量法

1. 家族エコロジカルモデルと FFFS

家族という小集団を理解するために、その特性を説明する枠組みとしていくつかの家族理論が提唱されている。筆者は、システム理論から派生した家族エコロジカルモデル⁴⁾⁵⁾の活用を推奨している。これは、家族を取り巻く環境をマイクロシステム、メゾシステム、エクソシステム、マクロシステムからなるシステムとしてとらえ、家族と環境との相互作用を分析する生態学を基礎としている。

家族機能尺度のFFFS (Feetham Family Functioning Survey) は、この家族エコロジカルモデルに

もとづいて、家族看護研究者のFeethamらによって開発された⁹⁾。FFFSでは、「社会 \times サブシステム \times 家族 \times 家族員」という入れ子式環境の中で、それぞれの関係を評価する。なお、「サブシステム」とは、家族エコロジカルモデルのコンテキストから、社会のサブ(下位)システムを意味するものである。

このように、「家族と家族員との関係」のみならず、「家族と社会との関係」と「家族とサブシステムとの関係」をも測定できることがFFFSの長所であり、家族看護学研究に適していると考えられる。

2. 機能不全家族の定義と家族機能の定量化

筆者は、機能不全家族とは「家族機能にかかわる役割行動が期待どおりに履行されず、家族の危機的状況が生じている家族」と定義している。これを質問紙で得点化することにより、家族機能の定量が可能になる。

FFFSは、25項目の質問から構成され、夫用と妻用の自記式質問紙が別々に用意されている。役割行動の履行を問う各質問項目に対して、現実(a得点)、

理想 (b 得点) , 価値 (c 得点) を, それぞれ7段階のリッカート・スケールで評価してもらう。この回答形式は, ポーターフォーマットとよんでいる⁶⁾。

回収後の質問紙から, 現実の家族機能と理想の家族機能の差異を算出し, 家族機能充足度得点 (d 得点 = | a 得点 - b 得点 |) とする。これは, 前述の機能不全家族の定義から考えて, 家族機能不全の程度を示す指標となる。なお, 質問紙で家族機能の充足度をリッカート・スケール法により直接評価してもらうことも可能ではあるが, これは「社会的望ましき反応バイアス」が含まれる危険性があるので, FFFS では上記のような間接的な形式を採用している。「社会的望ましき反応バイアス」とは, 回答が社会的に望ましい方向に偏ることを意味している。

さらに, d 得点から家族機能不全が認められ, かつ c 得点から高い価値を示している項目は, 家族看護介入の優先度が高いことを意味する。

3. FFFS 日本語版 I の開発とその構成概念

筆者らが標準化した FFFS (Feetham 家族機能調査) 日本語版 I⁷⁾ は, Feetham らの原版と同じ構成になっている。ここで, 「日本語版」と命名しているのは, 原版の翻訳版であることを明示しており, 通文化的研究への活用も可能にしているからである。

FFFS 日本語版 I は, 因子分析による構成概念妥当性の検討により⁷⁾, 家族エコロジカルモデルに準拠した内容であることが確認されている (図 1)。対内的機能は, パートナーや子どもなどとの相互作用である「家族と家族員との関係」から評価する。また, 対外的機能は, 知人や身内などとの相互作用である「家族とサブシステムとの関係」, 学校や職場などとの相互作用である「家族と社会との関係」から評価する。

4. 家族機能研究の今後の課題

FFFS 日本語版 I を用いた実証的家族調査の成果は, 筆者らの論文⁸⁾⁹⁾などを参照されたい。なお, FFFS 日本語版 I は無料であり, これまでに国内外 100 名を超える家族看護研究者に配布してきた (naohiro@hohashi.org 宛の電子メールで請求)。

今後は, 「妻たちの家族看護学」問題に対処するための方法論研究, トライアングレーションにより家族機能をさらに深く理解する研究が重要になってくると考える。また, d 得点と c 得点から家族看護介入の優先度を明確にできることから, 入院時の機能不全家族のスクリーニングなどに使用できる可能性があるが, このような家族看護実践への応用についても検討を要する。現在, 筆者らは, 香港とロサンゼルスでの通文化的研究を踏まえて, 日本の社会構造と文化を加味し, FFFS の「日本版」の開発に着手している。

文 献

- 1) 法橋尚宏: 家族理論を枠組みとした量的研究—家族エコロジカルモデルにもとづいた家族機能の定量—, 家族看護学研究, 10 (2): 15, 2004
- 2) Bailey, D.M.: Research for the health professional: A practical guide, F.A. Davis Company (PA, USA), 1997
- 3) Thomson, E. & Williams, R.: Beyond wives' family sociology: A method for analyzing couple data, Journal of Marriage and the Family, 44: 999—1008, 1982
- 4) Bronfenbrenner, U.: The ecology of human development: Experiments by nature and design, Harvard University Press (MA, USA), 1979
- 5) Roberts, C.S. & Feetham, S.L.: Assessing family functioning across three areas of relationships, Nursing Research, 31 (4): 231—235, 1982
- 6) Porter, L.W.: Job attitudes in management: I. Perceived deficiencies in need fulfillment as a function of job level, Journal of Applied Psychology, 46 (6): 375—384, 1962
- 7) 法橋尚宏, 前田美穂, 杉下知子: FFFS (Feetham 家族機能調査) 日本語版 I の開発とその有効性の検討, 家族看護学研究, 6 (1): 2—10, 2000
- 8) 法橋尚宏, 石見さやか, 岩田志保, 他: 入院病児への両親の付き添いが家族機能におよぼす影響—Feetham 家族機能調査日本語版 I を用いた付き添い期間別の検討—, 家族看護学研究, 9 (3): 98—105, 2004
- 9) Hohashi, N. & Koyama, C.: A Japan-U.S. comparison of family functions from the perspective of mothers utilizing “Family Houses”—Cross-cultural research using the Feetham Family Functioning Survey—, Japanese Journal of Research in Family Nursing, 10 (1): 21—31, 2004